

学び変え続ける！！

校長 氣田 眞由美

最上位目標 豊小フライド「自立 創造 共生」

◇めざす児童像＝子どもに付けたい力

自立＝自分から行動する力 創造＝自分から創り出す力 共生＝自分からつながる力

2020年代を通じて実現をめざす新しい時代を見据えた学校教育の姿として、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない個別最適な学びが提唱された。

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～（中教審答申 2021. 1）

ICTを有効に活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくこと。

これにより…

学習指導要領にある「資質・能力の3つの柱」をバランスよく育むことが重要！

- ① 「知識・技能」
- ② 「思考力・判断力・表現力」
- ③ 「学びに向かう力・人間性等」

「個別最適な学び」とは…（子どもの視点）

子どもが自らの学びが最適となるよう、自己の特性や学習進度等に応じ、学習の課題や内容、教材や方法等を選んだり決めたりしながら学ぶこと。

そのために…

教師が子どもの実態に応じて学習内容の確実な定着を図ることが必要

「指導の個別化」と「学習の個性化」の「個に応じた指導」（教師の視点）の充実が重要

☆キーワード

□指導の個別化

教師が支援の必要な子どもに、より重点的な指導を行ったり、一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法や教材、学習時間等の柔軟な提供、設定を行ったりすること。

□学習の個性化

教師が子ども一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子どもが自ら課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行うなど、学習が最適となるよう調整すること。

そこで…それらをしやすくするためのツール、子どもたちの「文具」として

○子どもが自立した学習者として「個別最適な学び」を進められるよう、1人1台端末を活用

・自ら見通しを立てる・学習の状況を把握・新たな学習方法を見いだす・学び直しや発展的な学習

○「協働的な学び」にも活用

・発表・話し合い・全体での意見の整理や共有・共同制作・異なる考え等を組み合わせる

○個別最適な学び ⇔ 協働的な学び それぞれの成果を還元 ⇔ 一体的に進める

*日々の**授業革新**を目ざして！！

○授業観の転換が必要

「教え込む授業」（教師が一方的に話したり説明したりする）から

- ☞ 子どもが主体的に「**自ら学ぶ授業**」（子どもが自分のめあてをもち、自分の学び方や学ぶ内容等を選択する）への転換

ねらい…教師が身に付けさせたい力

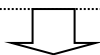
めあて…子どもの学びのゴール

成果目標

※この違いを明確にし、週の計画簿に併記

45分の授業において、どのくらいの子どもたちが めあてを達成 したか？

どうやってその達成状況を把握するか？



授業のはじめ（導入）に、学習の めあて を明確に示す

授業のおわりに、子ども自身に「めあて」に基づいて 学んだこと を振り返らせる

○振り返り＝自己評価 「自らの力を伸ばそうとする児童」の育成＝「**自立した学習者**」

子どもたち一人一人にアウトプットさせる

「分かった」「できた」「分からなかった」「できなかった」

○振り返り＝自己評価＝「**主体的な学び**」につなげる「**めあて**」の提示が重要！

そのためには…

知識・理解（理解しよう、知ろう）や思考・判断（考えよう、工夫しよう）などの活動レベル止ま

りの「めあて」ではなく、具体的言語活動（＝表現）を明示した「めあて」を！！

☆「めあて」例

ね 8の構成を理解させる

め 8はいくつといくつをかんがえて、えにあらわそう

ね 拡大図を使って町の特徴を記録する

め 町の様子や特徴を 色紙や形で表そう

ね 肯定と否定の主張ができるテーマを話し合い、多くの意見をすいあげる

め 討論会のためのテーマを グループで話し合い、3つ以上発表しよう

ね 二位数÷一位数の筆算の仕方を理解する

め 二位数÷一位数の計算の仕方を考え、ペアで 分かるように説明しよう

☆「振り返り」の活動例

- ・「めあて」について、振り返ったことをペアで伝え合い、感想を言い合う。
- ・「めあて」について、学習したキーワードを使って、100字程度でまとめる。
- ・「めあて」について、自分が学んだことをノートに書く。